



NPO法人日本アジア球友団ラリグラス 広報誌



CLUB LALIGURANS



大阪・関西万博2025

アジアとともに、未来へ走る。

大阪マラソン2025



当団では、2026年度のスタートにあたり、新たな体制を発足いたしました。これまでの「理事長」の役職名を「代表理事」に改めるとともに、昨年度まで会長を務めておりました小林洋平が、新たにその任に就くこととなりました。また併せて、新たに3名の理事が加わりましたので、ここにご紹介申し上げます。

代表理事挨拶

Message from Representative Director

このたび、代表を拝命いたしました小林洋平です。当団は1999年の設立以来、スポーツを通じて地域とアジアをつなぐ活動を続けてまいりました。私自身も運営や現場の活動に深く関わり、ネパールをはじめとした仲間の皆さんと、野球やランニングを通じた交流を共に積み重ねてきました。約6年ぶりの復帰となりますが、これまでいただいた多くのご縁と経験を大切に、当団の歩みを未来へしっかりとつなげていく決意です。

私たちは、「スポーツを通じた国際交流」「次世代の学びと成長の創出」「地域とアジアをつなぐ協働とつながりづくり」という基本方針を軸に、ボランティアとして学び合いながら、持続可能な形で活動を育んでいきます。

スポーツには、国境を越えて人をつなぎ、前へ踏み出す力を与えてくれる力があります。私自身も引き続き現場に立ち、仲間とともに走り、対話しながら、一つひとつの出会いを次世代の希望につなげていきたいと考えております。

皆さまの温かいご支援に深く感謝申し上げますとともに、地域からアジアへと広がる「つながりの輪」を、これからもしっかりと育ててまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



3月 名古屋シティマラソン
最後方のスタートから1年。念願の先頭スタートに。



7月 富士登山競走
26年は富士の頂を目指します。



侍ジャパン公式サイトに
コラム執筆しています。

基本方針 Basic Policy

NPO法人日本アジア球友団ラリグラスは、1999年の設立以来、野球をはじめとするスポーツを通じた出会いや学びを原動力に、ネパールを中心としたアジアの仲間たちと共に歩み、共に未来を築いてきました。それぞれの地域や文化を尊重しながら、「ともに走る」という想いを世界へつないでいきます。

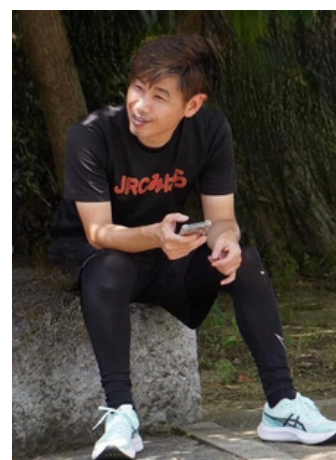
私たち自身もボランティアとして学び合い、持続可能な形で交流を育み続けることを大切にしています。

スローガン：「アジアとともに、未来へ走る。」

- 1 スポーツを通じた国際交流、野球を原点に、ランニングをはじめとする多様なスポーツを通して、アジアの人々と「カラダを動かす楽しさ」を分かち合います。一方的に伝えるのではなく、現地の人々と協働し、共に創り出すスポーツ文化を目指します。スポーツを通じて築かれる友情・尊敬・信頼の輪を大切にします。
- 2 次世代への学びと成長の創出、野球やスポーツ交流を通じて、子どもたちが自らの未来を思い描けるような学びと経験の機会を広げていきます。挑戦の中で得られる気づきや仲間とのつながりを大切に、互いに学び合い、育み合う姿勢を重んじます。また、次世代を担う若者が自信をもって歩めるよう、共に育んでいきます。
- 3 共に走る地域と国際社会、国内外のスポーツイベントやチャリティ活動を通じて、地域の人々、企業、行政、教育機関など多様な主体と連携しながら、「誰もが参加できる国際協力」の形を広げていきます。アジアの仲間とともに歩み、地域に根ざした交流を重ねる中で、文化や世代を超えて支え合うネットワークを育てていきます。一人ひとりのペースを尊重し、共に走ることから生まれる共感とつながりを大切にします。

新理事紹介

Introduction of New Board Members



上平 耕司

JRCみはら 代表



辰巳 恵美子

看護師 日本DMAT隊員



成田 航輝



ネパールの情勢



2025年9月上旬、ネパールでは政府がオンライン上の偽情報、誹謗中傷、サイバー犯罪への対策を理由として主要SNSの利用を禁止。この措置に対して、カトマンズでは若者を中心とした抗議デモが発生。デモ参加者の一部が暴徒化し、大きな混乱を招く事態となりました。ここで一連の混乱についてご紹介いたします。

● 混乱の経過

9月4日	・ネパール政府が主要SNSの利用禁止措置を発表。
9月8日	・SNSへのアクセス禁止措置や汚職に対する抗議デモが発生。 ・デモ参加者と警察の衝突で死者19人と400人以上の負傷者が出る。 ・夜、ネパール政府がSNSへのアクセス禁止措置を撤回。
9月9日	・暴徒化したデモ参加者が連邦議会議事堂や有力政治家の自宅に放火。 ・カトマンズでの外出禁止令が発令される。 ・混乱を受けて、カドガ・プラサード・シャルマ・オリ首相が辞意表明。 ・トリプバン国際空港が閉鎖される。 ・軍が治安維持のため街に部隊を配置すると発表。
9月10日	・抗議活動が続き、死者は30人、負傷者は1000人以上に上る。 ・5人以上での集会が禁止される。 ・トリプバン国際空港の閉鎖が解除される。
9月11日	・この日までにネパール全体で1万3千人以上の囚人が刑務所から脱走。
9月12日	・元最高裁長官のスシラ・カルキ氏が来年3月までの暫定首相に就任。 ・来年3月には下院が解散し、総選挙が実施される予定。 ・外出禁止令が解除される。



スシラ・カルキ新首相

ネパール初の女性首相。2016年から2017年まで女性初の最高裁長官を務める。汚職などの犯罪に厳しいことでも知られる。

日本・ネパール国交樹立70周年



来年2026年は日本とネパールの国交が樹立されてから70周年の節目の年に当たります。この節目の年にあたり、当団では日本とネパールの友好促進のための活動を展開してまいります。

● 国交70周年スポーツ体験会（仮称）

イベントの概要

カトマンズ周辺で市民を対象としてランニングや簡単な球技を体験する「スポーツ体験会」を実施します。ランニングは特別な道具を必要とせず、誰もが気軽に始められるスポーツです。このイベントは、その手軽さを生かし、運動習慣の無い人々も参加しやすい内容とし、ランニングを中心に、軽いストレッチやレクリエーション等で身体を動かす楽しさを体感してもらいます。

さらに、当団が取り組んできた野球も紹介し、関心を持った人には「投げる」「打つ」等の基本動作を体験してもらいます。走ることはスポーツの基礎であり、複合的な運動体験を通してカラダを動かすことの大切さを感じてもらうことを目指します。



● 国交70周年NBSA Laligurans Cup 2026（中止）

カトマンズ近郊にて、子どもたちを対象とした野球大会「NBSA Laligurans Cup 2026」を2026年1月に開催する予定でしたが、4ページに記載のネパール情勢の混乱により、誠に遺憾ながら1月の開催は見送ることといたしました。大会につきましては、今後も情勢を注視しつつ、改めて開催の可能性を検討してまいります。

シャクナゲ交流

国交70周年記念行事は一般社団法人福島ベースボールプロジェクト（FBP）様と共催で進めており、記念行事にはFBPの役員様数名も現地で参加される予定をいたしておりました。シャクナゲ交流の詳細については、12ページをご覧ください。

国交70周年記念行事は2026年12月の開催を見据え、現在検討を進めております。





活動25周年 日本ネパール スポーツ交流プログラム2024-2025

みんなでかける虹。



大阪マラソン2025

2025年2月24日に「大阪マラソン2025」が開催されました。大阪マラソンは、西日本最大、全国でも東京マラソンに次ぐ規模の都市マラソン大会です。

今大会で当団は2024年に引き続き、チャリティ寄付先団体に選出されました。また、大会にはチャリティ寄付先団体への寄付を7万円以上集めることを条件に出場権を得るチャリティランナーが出場いたしますが、今大会には当団からは外国人5名を含む6名のチャリティランナーが出場いたしました。

ネパールからも出場



SPORT
FOR
TOMORROW

今回の大阪マラソンにはネパール野球ソフトボール協会（NBSA）の役員ら3名も来日して出場いたしました。実際に大阪の街を走ったNBSAのディパック・ネウパネ会長らは、大会の参加者の多さに驚き、老若男女が一斉にスタートし喜びに溢れながら走っている姿や沿道からの熱い声援に感銘を受けておりました。



ディパック・ネウパネ
会長

大阪マラソンEXPO

大阪マラソン2025の前日と前々日にはインテックス大阪にて「大阪マラソンEXPO2025」が開催されました。当団もチャリティコーナーにブース出展し、多くの方々にご来場いただきました。



チャリティプログラム

大阪マラソンはチャリティがひとつの大きなテーマとなっています。チャリティランナーの募集やチャリティグッズの販売など様々な形で寄付が集められ、集められた寄付金は当団を含めたチャリティ寄付先団体へ寄付されました。

当団のチャリティランナー

- ① シュルマン・ジョナ 様
- ② イッソー・タパ 様
- ③ 小林 洋平 様
- ④ ローシャン・タパ 様
- ⑤ ナワラジ・ブジェル 様
- ⑥ ディパック・ネウパネ 様

当団への寄付金総額

879,234円

ご協力いただきました全ての皆様に
心より感謝申し上げます。



大阪マラソン2025壮行会

2025年2月22日に大阪市内にて大阪マラソン2025の壮行会を開催いたしました。この壮行会には、マラソン出場のために来日中のネパール野球ソフトボール協会の役員らも参加いたしました。

ところで、スポーツをするための体づくりに食は欠かせません。そういった意味も含め、壮行会では親子ネパール料理体験教室も併せて行いました。料理体験を通じた国際交流は初めての試みでしたが、30名の方々にご参加いただき、参加された方からは、「楽しかった!」、「外国人の友だちができた」というような声をいただき、皆さん楽しそうにされていました。料理教室は、今後も継続していけたらと存じます。





活動25周年 日本ネパール スポーツ交流プログラム2024-2025

体重84.3kg体脂肪26.5%のランニング素人による

●サブ3 チャレンジプロジェクト

🏃 プロジェクト概要

フルマラソン（42.195km）を3時間未満で完走することを「サブ3（サブスリー）」といいます。このプロジェクトは2024年の大阪マラソンで当団のチャリティランナーとして初マラソン（6時間00分44秒）を走った当団代表理事の小林洋平が、それから1年後の大阪マラソン2025でサブ3達成を目指すというものです。

🏃 結果 35km付近までサブ3ペースも残り7km大失速

スタート	00:00:00 (00:01:07)	00:00:00
5km	00:20:43 (00:21:50)	00:20:43
10km	00:41:49 (00:42:56)	00:21:06
15km	01:02:43 (01:03:50)	00:20:54
20km	01:24:00 (01:25:07)	00:21:17
25km	01:45:11 (01:46:18)	00:21:11
30km	02:07:52 (02:08:59)	00:22:41
35km	02:31:08 (02:32:15)	00:23:16
40km	02:56:53 (02:58:00)	00:25:45
フィニッシュ	03:09:00 (03:10:07)	00:12:07

大阪マラソン2025での記録は3時間9分00秒で、サブ3の達成はなりません。小林は24年5月には月間走行距離1000kmを記録するなど、1年間で大阪とカトマンズの距離4,810kmを走り抜くという挑戦も行い、この目標は達成いたしました。初マラソンから半年後の2024年9月28日に開催されたカトマンズ・マラソンに出場し、外国人3位（全体12位）となり、現地でも大きく報道されました。

🏃 感想

1年間でタイムは2時間50分ほど早くなりましたが、本気でサブ3をクリアするための練習に取り組んできたので悔しさでいっぱいです。今の自分に足りないところ、必要な練習もわかりましたので継続して取り組み、人間的にも成長していけたらと思います。応援いただきました皆様、本当にありがとうございました。

大阪マラソン2026年で再挑戦。市民アスリート枠で出場決定。



カラダを動かすことの楽しさを伝えよう

トピックス

●第3回NBSA Laligurans Cup

2024年12月27日と28日の2日間にわたり、カトマンズに隣接するラリトプールで「第3回NBSA Laligurans Cup 2024」を開催いたしました。この大会は試合や大会の機会に恵まれない子どもたちにその機会を提供し、野球を続ける目標となることを目指して、ネパール野球ソフトボール協会（NBSA）とともに2021年から定期的に行っている大会です。



選手の声

試合ができてとても嬉しかったです。これからも練習を続けて、大会で活躍できるように頑張ります。
(9歳)



●BFC LALIGURANS CUP 2025



2025年9月27日に大阪市のFAB FUTSAL PARKで弁天町フットボールクラブ（BFC）主催の在日ネパール人によるフットサル大会「第5回BFC LALIGURANS CUP 2025」が開催されました。大会には全国各地から24チームが参加し、熱戦を繰り広げました。

●ランニング練習会

当団では発展途上国での野球大会開催を目的としたランニング練習会を実施しております。

ネパールから来日中だったネパール野球ソフトボール協会（NBSA）の皆さんにゲスト参加いただき、一緒に大阪城公園を走り、汗を流しました。終了後には、「ネパールで野球を広めていくには、まず“カラダを動かす習慣づくり”が大切だ」との声も寄せられました。

- 場所：大阪城公園
- 対象：初心者～中級者(活動に賛同いただける方であればどなたでもOK)
- 参加費：一般 1000円、会員 500円 想定時間は1時間です。※全額寄付
- 参加方法：時間、内容はお気軽にお問い合わせください。
- 注意事項
 - ・公園内のロッカーならびにランニングステーションをご利用ください。
 - ・走りやすい服装・運動靴でご参加ください。



🏃 2026年に向けて

2026年も大阪マラソンが開催されますが、当団はチャリティ寄付先団体には選出されませんでした。選出されなかったことは残念ですが、当団は2026年以降も「カラダを動かすことの楽しさを伝えよう」をコンセプトにした活動を展開してまいります。

右記のランニング練習会もその一例ですが、走ることは特別な道具や設備を必要とせず、誰もが気軽に、そして一人でも取り組むことができます。また、ランニングは様々なスポーツの基礎でもあり、野球をはじめとした様々なスポーツの普及にもつながる大切な第一歩と考えています。



活動25周年 日本ネパール スポーツ交流プログラム2024-2025

大阪・関西万博2025

2025年4月13日（日）から10月13日（月）まで大阪市の夢洲で大阪・関西万博2025が開催されました。この万博で当団は、8月2日に「TEAM EXPO パビリオン」にて「在日外国人とのスポーツによる共創」をテーマにブース出展とステージ発表を行いました。



ブース出展



来場者の皆様からは、「ネパールに野球があるのか」と驚きの声が相次ぎ、海外の野球に触れる機会の少なさもあって、多くの方が「面白そうだ」、「もっと知りたい」と興味を示されていました。野球をきっかけに会話が広がり、ネパールという国そのものへの関心にもつながったことは、大きな収穫でございました。

ブース出展では、ネパール野球の歩みと現状を動画を交えながら紹介するとともに、ネパール文化の紹介としてネパールの民族衣装や香辛料などの展示を行いました。

TEAM EXPO 2025 / 共創チャレンジ

今回の出展は、大阪・関西万博2025が実施している「TEAM EXPO 2025」の活動の一環でございました。「TEAM EXPO 2025」は、多彩な活動で大阪・関西万博とその先の未来に挑む、みんながつくる参加型プログラムです。

「TEAM EXPO 2025」の活動の一つが「共創チャレンジ」です。これは大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現するため、自らが主体となって共創しながら未来に向けて行う具体的な活動です。当団も「在日外国人とのスポーツによる共創」をテーマとして共創チャレンジに登録し、今回の出展をいたしました。



ステージ発表

ステージ発表では、在日ネパール人の皆様によるネパールダンスの披露を中心にネパールの紹介を行いました。ネパールダンスの披露では、来場者の方々も次々と踊りの輪に加わって大盛況となり、会場全体が一体感に包まれた素晴らしい時間となりました。

ネパールでダンスは日常に深く根付いた文化であり、祭りや祝いの場では老若男女を問わず誰もが体を揺らします。「踊れない人はいないのではないか」と思えるほど日常的で、そこには体を動かす楽しさを誰もが自然に共有する瞬間がありました。

ダンスの動画は下記のQRコードからご覧いただけます。



ダンスの動画



1



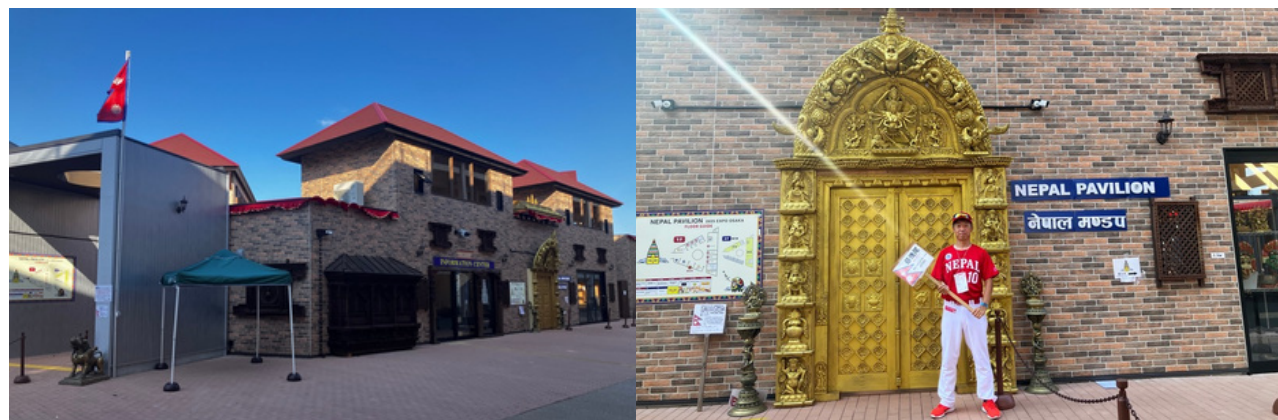
2



3

曲目

- 1 ゴルケ ククリ
（ゴルカのナイフ）
- 2 マティ マティ サイルンゲマ
（上へ、上へ、サイルンゲで）
- 3 レッサム フィリリ
（絹のサリーがひらひら）



ネパールパビリオンも7月19日に無事オープン



活動25周年 日本ネパール スポーツ交流プログラム2024-2025

ネパール野球ソフトボール協会の来日

●ネパール情勢の影響

4ページでご紹介しておりますネパール情勢の混乱は、ネパール野球ソフトボール協会（NBSA）の役員らの来日にも影響を与えました。

当初、NBSAの役員らも下記のキャッチボールクラシックの大会に合わせて9月に来日予定でしたが、ビザの発給機関や空港の一時閉鎖で来日が叶わず、11月に日程を変更しての来日となりました。



●シャクナゲ交流



今年もキャッチボールクラシック・福島大会に合わせて、ネパール野球ソフトボール協会（NBSA）の来日参加も予定されていましたが、現地事情により実現には至りませんでした。ネパールは、シャクナゲ交流の一環として2021年以降大会への参加を続けており、福島とのつながりは今も大切に育まれています。

キャッチボールクラシックは、9人一組で2分間、どれだけ正確に投げ合えるかを競う競技で、相手が捕りやすいボールを安定して届ける技術や集中力、チーム全体の連携が試されます。会場では、ボールが軽快なテンポで行き交い、成功のたびに歓声が上がりました。ミスした仲間を励ましながらリズムをつくっていく子どもたちの姿は、キャッチボールというシンプルな動作の中に、成長や挑戦の力強さを感じさせてくれました。

これからも、福島から始まる交流が国内外へ広がり、子どもたちの未来を後押ししていくことを願っています。



開会式の様子

シャクナゲ交流とは

「シャクナゲ交流」は、FBPと当団が進めている野球を通じたネパールと福島県の交流活動です。

ネパールの国花と福島県の県花がともにシャクナゲであること、また、福島県は2011年に東日本大震災、ネパールは2015年の大地震とともに震災からの復興を経験するなど福島県とネパールには繋がりがあるから、2023年のCBC大会で「シャクナゲ交流宣言」がなされ、活動が始まりました。

●読売巨人軍訪問

NBSAの役員らは9月の来日で読売巨人軍の訪問も予定していましたが、それも叶いませんでした。球団には当団スタッフのみでの訪問となりましたが、球団関係者の方々から「ネパールの皆さんは大丈夫ですか」と声を掛けていただき、報道で伝わる現地の状況に、多くの人が関心を寄せていることを実感いたしました。



●全日本野球協会訪問

2025年11月25日、NBSAの役員らが全日本野球協会（BFJ）訪問いたしました。当日は、BFJの山中正竹会長らとネパールをはじめとしたアジアの野球情勢などについて意見交換を行いました。

●BFJアンパイアスクール訪問



2025年11月24日、奈良県生駒市の近畿大学生駒総合グラウンドで開催された一般財団法人全日本野球協会（BFJ）主催「第24回アンパイアスクール」をネパール野球ソフトボール協会の会長らが訪問いたしました。

スクールでは、プロ野球審判員やアマチュア審判員の皆様による講習の様子を見学し、短い時間ではありましたが二人制審判のメカニックスについても学ばせていただきました。審判経験者がまだまだ少ないネパールにとって、こうした動きや考え方に触れたことは今後の活動に向けて大きなヒントになったとのことでした。

今回の訪問にあたり、ご対応いただいた皆様に心より感謝申し上げます。日本とネパールの野球交流が、現場の学びをきっかけにさらに深まっていくことを願っています。





世界野球ソフトボール連盟総会

2025年10月16日から18日にわたり世界野球ソフトボール連盟（WBSC）およびアジア野球連盟（BFA）など各大陸の野球、ソフトボール連盟の総会が行われ世界各国の代表者がバンコクに集まりました。総会にはネパール代表としてネパール野球ソフトボール協会のディパック・ネウパネ会長らが参加しました。WBSCには新たに10カ国が加盟し、アジアではヨルダンと北朝鮮が新たに仲間入りを果たしました。会場には各国の国旗がずらりと並び、「世界大会」のような華やかさでした。

WBSC

Game Time!

日程概要

10月16日 ワークショップ
10月17日 大陸別総会
10月18日 WBSC総会



ネパール代表団



フラッカリ会長



総会の様子



小林代表理事

参加者の声



プラディーブ・シャーNBSA事務局長

WBSC第6回総会にネパール野球ソフトボール協会を代表して出席できたことを光栄に存じます。この総会では世界各国からの代表者が一堂に会し、野球・ソフトボールの世界的な発展と将来について議論しました。ネパールの現状を共有し、他国から学び、ネパールにおける競技発展のための国際連携を強化する絶好の機会となりました。



アジア野球連盟総会

WBSC総会の前日にはアジア野球連盟の総会も開催されました。総会では役員選挙も行われ、会長には台湾のジェフリー・クー・Jr氏、副会長には全日本野球協会会長の山中正竹氏が再選されました。



ジェフリー・クー・Jr氏（右）



山中正竹氏（中央）

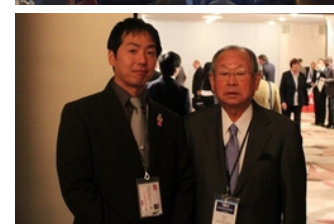
第16回BFA西アジア野球大会2025



2025年5月15日から7日間にわたり、イランのキャラジで第16回BFA西アジアカップが開催され、7か国が出場しました。なお、ネパールは国内の事情で参加いたしませんでした。また、大会の審判長を務めたのBFA副審判長で当団のゼネラルマネージャーでもあるスリランカ出身のスジュー・ウィジャヤナーヤカ氏（写真）でした。



スリランカでは11月下旬に上陸したサイクロン「ディトワ」の影響で土砂崩れ、家屋倒壊など甚大な被害が出ました。スリランカ政府は非常事を宣言、海外からも多くの支援が寄せられています。



吉田義男氏（右）
2013年、国際野球連盟総会にて

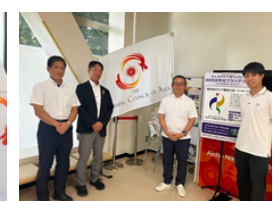
吉田義男氏への感謝と哀悼の意

2025年2月3日に元阪神タイガース監督の吉田義男氏が逝去されました。吉田氏はネパール野球の2000年にご指導いただいて以降、当団は長年大変お世話になっておりました。活動20周年の際にはお祝いの言葉もいただき、ネパール野球の事も気に掛けていただいておりました。総会時に流された追悼映像でもお姿が映し出され、その尽力と存在の大きさを改めて実感しました。吉田氏のご冥福をお祈りするとともに、吉田氏の気持ちに応えるためにも今後も活動に尽力してまいりたいと存じます。



名古屋アジア大会2026

2026年9月19日から10月4日にわたり、名古屋市で第20回アジア競技大会が開催されます。同大会では、野球・ソフトボールも実施競技となっており、ネパールも出場を目指しましたが、叶いませんでした。





社会人硬式野球クラブチーム NineForceの活動

当団は
NineForceの
運営母体です。
<https://www.9force.net/>



2010年6月1日、社会人硬式野球クラブチーム「伊香立MapleRippers」が発足しました。その後、チーム名を「NineForce」に変え、日本野球連盟に加盟する社会人硬式野球クラブチームとして、活動を続けてきました。今年は記念すべきチーム発足15周年であり、引続き、日本野球連盟主催の公式戦や練習試合などを行った他、野球を通じた国際交流、地域貢献活動も行いました。

野球活動では、3月の都市対抗野球大会、6月の近畿クラブ会長杯（奈良県予選 ※今年は変則日程で、8月の近畿クラブ会長杯本戦若しくは10月の奈良県知事杯に出場）、10月の奈良県知事杯の3つの公式戦に出場しました。

今年はシーズン初戦からオープン戦で勝利を重ね、上半期の公式戦はいずれも初戦をコールド勝ちするなど、チーム状態、雰囲気、戦力的なバランスはこれまでで一番良い状態でした。



公式戦（奈良県知事杯）

2025年奈良県野球連盟ベストナイン



遊撃手：岸田亮太郎
（初受賞）



二塁手：北村勇平
（初受賞）

その結果、二塁手北村勇平選手、遊撃手岸田亮太郎選手の2名が、2025年奈良県野球連盟ベストナインに選出され、受賞しました。NineForceから同時に2名の受賞は初めてで、内野の要の二遊間で受賞するという快挙を成し遂げました。

試合、練習以外での活動も引続き活発に行ないました。今年も木津川市の「バッティングセンター木津川」で8月と12月にNineForce選手による小中学生を対象に野球教室を開催しました。今年はNPO法人「日本アジア球友団ラリグラス」との共催で、両日とも約30名ほどの参加もあり、保護者の方々を含め、いろいろな野球のアドバイスや相談に対応しました。8月の開催では元女子プロ野球界のレジェンド小西美加さんも参加し、野球教室を盛り上げてくれました。



9月には、昨年に続き福島県楡葉町で開催された「キャッチボールクラシック」大会にも参加し、「福島ベースボールプロジェクト」の方々ははじめ、多くの福島県の野球関係者と交流させていただきました。

チーム創設15年という節目を迎えたNineForceですが、この15年及び今年も我がチームを応援、サポート等していただいた方々には感謝申し上げます。

NineForce監督：藤森稔人



チーム創設15周年（歴代ユニフォーム）

● ラリグラス野球教室2025



2025年8月10日にバッティングセンター木津川（京都府木津川市）にて野球教室を開催いたしました。

講師には元女子プロ野球選手の小西美加氏、昨年まで社会人硬式野球の名門企業チームでプレーした古川昂樹氏のほかNineForceのメンバーが務め、総勢約50名のイベントとなりました。

あいにくの雨の中での開催とはなりましたが、元プロ野球選手らからの直接指導を受け参加した子どもたちや保護者も大変喜んでおり、会場は終始熱気に包まれていました。



● 第1回十手・下市町リレーマラソン2025



2025年3月2日に奈良県下市町で「第1回十手・下市町リレーマラソン2025」という市民参加の大会が開催されました。大会には当団が運営母体となっている社会人硬式野球クラブチーム「NineForce」もステージ出演に参加し、小林代表理事もチームよしものと一員として大会に出場しました。

十手さんはよしもと興業に所属されている奈良県住みます芸人でコンビ揃ってマラソンは2時間40分台走られるアスリート芸人です。そんなお二方が今回初めてマラソン大会を開催され、500名以上の方が参加されました。



1999年

- プール学院大学のネパール研修を契機に、同国では野球の認知度が「ゼロ」であることが判明。ネパールのスポーツ大臣から野球普及の要望を受け、現地NGOと協働して赤松弘章らが「学生団体野球を広める会」を設立し活動を開始。
- セカンダリースクールの学生20名に「これがボールです」と道具の説明から野球交流活動がスタート。**夢はオリンピック出場。**

2000年

- 元阪神タイガース監督の吉田義男氏からご指導をいただく。
- セカンダリースクールで2チームを作り、初めての対抗戦を開催。

2001年

- 現地指導者の派遣を開始。
- 初のポカラ市内学校対抗トーナメント大会を開催。

2002年

2003年

2004年

2005年

2006年

- 10月日本語学校兼野球事務所としてポカラハウスを設立。
- ネパールの内戦が終結（1996年2月～2006年11月）

2007年

2008年

2009年

- ポカラハウス閉鎖。
- イッソー・タパを日本に招聘、ネパール人として初めてプロ野球独立リーグの入団テストを受験。全て不合格。

2010年

2011年

- 第1回南アジア野球選手権開催。ネパール初の国際試合出場。
- ネパールが国際野球連盟の世界ランキング55位にランクイン。
- イッソー・タパ 0勝1敗、防御率7.15。シーズン後、06ブルズに移籍。

2012年

- パキスタンPunjab International Sports Festival にて銅メダル獲得。



1999年9月8日 活動初日



2001年 練習の様子



2006年 ポカラハウス開校



2010年 大阪ホークスドリーム入団会見



2011年 南アジア野球選手権

2013年

- 国際野球連盟の総会でネパールの加盟が承認される・パキスタン東大阪友好親善試合の実施。
- NPO法人ネパール野球ラリグラスの会として法人化（理事長：小林洋平）。
- 第11回西アジアカップに急遽出場。理事長の小林洋平がネパール代表監督に就任し、最優秀監督賞を受賞。大会後に国際野球連盟の世界ランキング47位まで上昇。

2014年



2013年 国際野球連盟加盟 第11回西アジアカップ 2014年 ネパール vs 東大阪選抜（花園） 活動15周年記念式典

2015年

- ネパールで4月25日に大地震発生。震災復興支援活動。
- 中国MLBアカデミー研修。
- パキスタン代表選手 移籍支援→アジア野球選手権大会出場。

2016年

- Jリーグとネパール防災スポーツ教室を開催。
- カトマンズで「ネパール復興支援野球大会＆審判講習会」を開催。

2017年

- 第13回BFA西アジア野球大会出場。BFA公認の国際大会で初勝利。
- スポーツ庁長官より感謝状を授与される。



2015年 MLBアカデミー 2016年 復興支援野球大会、審判講習会 2017年BFA公認国際大会初勝利 鈴木大地スポーツ庁長官より感謝状

2018年

2019年

- WBSCの世界ランキングは最下位の83位。

2020年

- コロナ禍により全ての活動が停止。

2021年

- NPO法人日本アジア球友団ラリグラスに改称。

2022年

2023年

- 在日ネパール人のための野球体験会を開始。
- 福島県とネパールの野球を通じた交流「シャクナゲ交流」開始。

2024年

- 大阪マラソンのチャリティ寄付先団体に初選定される。
- 活動25周年。スポーツ体験会、ランニング通じた交流を開始。

2025年

- 大阪・関西万博2025にて出展。
- ネパールがWBSCの世界ランキングから消滅。



2015年 ネパール大地震



2019年 西アジア野球大会（スリランカ）



2024年 ネパールオリンピック委員会



Nippon Asia Baseball Friends
CLUB LALIGURANS
Since 1999

編集・発行：NPO法人日本アジア球友団ラリグラス

〒552-0002 大阪市港区市岡元町3丁目11-32 シリザ南アジアスパイスマート弁天町内

<http://club-laligurans.org/> E-mail:info@club-laligurans.org

電話：06-6648-8907 2025年度号 2025年12月25日発行

